

明治24年ころの尾野山近辺

西羽 晃

現在の国土地理院の前身である大日本帝国陸軍測量部が発行した「5万分の1」地図がある。その初期の段階である明治24（1893）年測図（添付の図）を見ると、桑高付近の当時様子が忍ばれる。図の下方にある道路が馬道であり、家並みが続いている。中央あたりの上に「卍」があるのが、走井山勸学寺であり、現在も同じ場所にある。「矢田」の文字の左横から上に続く点線が道路であり、現在の馬道駅から桑高に続く道である。小さな丘の谷間を通る道のようなものである。桑高の前身である桑名中学は道を遮って作られたようである。付近には何もない。



上方に書いてある「北別所」の「所」の文字の左にある鳥居が立坂神社で、明治41年に尾野神社に合祀してしまった。跡地は桑陽保育所となっており、立坂神社旧地の石碑が立っている。さらに上の「別」の字の右横に「文」がある。

これは大成小学校の前身である勸善学校で、校舎が2棟あるのが見られる。明治41年に小学校は現在地に移ってしまった。跡地の跡地は一般の住宅地になっている。この学校の横の道は今も使われている道で、現在の桑高から北に向けての道で、道路際に立っている電話線の電柱には「谷町」と表示があり、小さな丘陵の谷間であったようだ。

諸戸徳成邸は明治30年に墓地が作られたことが端緒である。付近に梅樹が2000本植えられた農園となった。明治37年に完成した諸戸水道貯水池や、伊藤伝七の徳成農園（徳成随風23）が明治43年に作られた。長禅寺も明治20年代に作られたと思われる。

諸戸徳成邸は大正時代末から昭和の初めに建設されたが、桑名中学（現桑高）も同じ時期に建設された。このように明治20年代から昭和の初めにかけて尾野山近辺は開発されてきた。